

名家
书画

冲
名集

春冬



春を載きくありて車山を何ぞと
 袂くんふ玉栴つそりて満ち
 之つゝありて栴雪みりて埋もれ
 雪をと吉を那く堀出さん人あは
 てもあらねしや大朝茶のあは
 ちまねしと母おののかられぬと
 ちねとて信終ら茶あはれぬ

春を載きくありて車山を何ぞと

春を載きくありて車山を何ぞと

春を載きくありて車山を何ぞと

春を載きくありて車山を何ぞと

水

栴

水

載

布、政の毒を空に雲中へ吹かす
 標本ありて現るゝと事如候り
 下らるる福を玉たるゝゆは
 ちとしき業ちとらむし

松林鳳其屋五香



春といふと糸の 楚山
 先四福寿草

福寿草
 元日州

天の戸乃あゝ
 一夜子あゝ

千雀女

福寿草嫁乃
 じんまゆゆ

里妻

ぬえあ

実かゝる

名をま

素仙

みくひるれ明るの物あゝ
 武實



翌日も嘆

元日字のつや三哉

イセ 雀史

福壽草人の

挨拶に嘆ありを 秋申

萱草のもこ子

嘆より福壽草子

凡 白麩

春の白とまのいそな子福壽草子 雀史

紅流のつや

大道

紅流のつや

こゝれに福壽草子

日のかさ

まのよもこ子

袴着

福壽草子

嘆よりつや香中 香糶

袴着

居之

よもこ子

花のつやよ福壽草子 桑枝

少年

福壽草子

由磨

うせのよもこ世やういそ福壽草 虎有

水掬り押 香中ハ芥所 如髪 芥

押をて涙の 武費

芥摘ハ信雲 水糶

よもこ子

芥摘ハ信雲 芥泉

あくれハ信の末

其外ハつや 藤葉

そのつや芥芥

芥のよもこ子信雲ハ水のよもこ子

うすらハ信雲ハ芥ハ芥ハ芥 其角



摘れてもゆり花咲き茶うぬ武豊
一摘小葉の山ま 水鏡

幢ついで香も

茶うぬ茶うぬ

噴きあひ茶うぬ

きりきりみ雨耕

姐板小

のせれえ 疾維

白く茶うぬ

茶うぬ茶うぬ茶うぬ茶うぬ

茶うぬ茶うぬ茶うぬ茶うぬ

七折の中小つと務茶うぬ

我教うらうら茶うぬ



茶うぬ

月小抄て
鼠麴草摘也

山う奇花央

遠近の妹山嶺山

母子系 女松花

あうりれ名心

茶うぬ母子叶 昔豊

中山の腺カも

母子草 一桃

人う只名三行

新 茶うぬ 雙山

母子叶

そこをらみの

小張り口

水たよと雙山

鼠麴草
母子草



鼠麴草

葉をくえり成つて佛の形
 蓮花の形に似たり
 葉の形は
 葉の形は

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり



漢名 雞腸草也
 佛座
 カワラケ尾

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり
 此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり



此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり

此の形は佛の形に似たり
 蓮花の形に似たり

若菜つむむら

楚山

折中

うまもふーまもふー

うまもふー

雀房より芥子

花猪

眠く若菜

摘むる若菜

序香

只今

破るる若菜

つむ若菜

武費

若菜

水舟小

且見

つむ若菜

水舟小

若菜

楚山

若菜つむ

若菜

もらふ

若菜摘む

袖袂

若菜小雨もつむる若菜

落ノ莖

若菜

東雲

若菜

若菜

若菜

若菜

若菜

若菜

武費

若菜

若菜

白黛

若菜

傘

若菜

白黛

若菜

若菜

若菜

若菜

若菜



三葉芥

宜ハヤク

ツラアリ

三のそ芥 雙山

花より新

新ドリ

三葉芥 風斜

春あけの備あり

星もよ先菜摘

くは赤き根本

おすーき 姫菜分 不曉

池のあもこむす 雙山

姫菜より赤く形

ヨメナ 姫菜



ふふふのふふふもか

岩根多 武貴

ふふふのふふふ

くけふとふと 車來

ふふふのふふふ

流し門のり

ふふふのふふふ

つたふの先の名ふるは

ふふふのふふふ

やうれ七めさ

ふふふのふふふ

子めりせー 池と 姑むらへ 雙山



筆草

最一送者の自伝を楚山

人の丁子子

夕ふれろ

録車

雨を白の丁子子

白き一丁
とく一丁名の
丁子子



丁子子

花より以えよして

楚山

菊
キク
根分

葉苗を

葉の老成を

中々小極

けり寺の車

雀巢

林一子のもふ

標康

くや白へふ葉の苗

葉極を

のけえお

葉の芽うれ

岳芝段

茂堂

極よりて優く

葉の芽かう草

いせ

本

くや小極

根分
う草
虎有



和潮

夏山

新

子厥



蕨 子厥 蕨子

蒲公英の畑

敷子の一葉

唐き此の川

此の松の新

海はみま子葉山

蒲公英

丸懐か 芝方

敷子の何れも

此のふも有

蒲公英の如く

千波の音

敷子のうねり

敷子の

赤足さるる

人形の一日

五音 鬼方



り奔る也垣

却云

蒲公英

一各ツツミ 弁トモ云

大いしる風ふれ

此より杖葉式 楚山

此より牛の草味 花鏡

すゝ山 杖葉式

はらふ

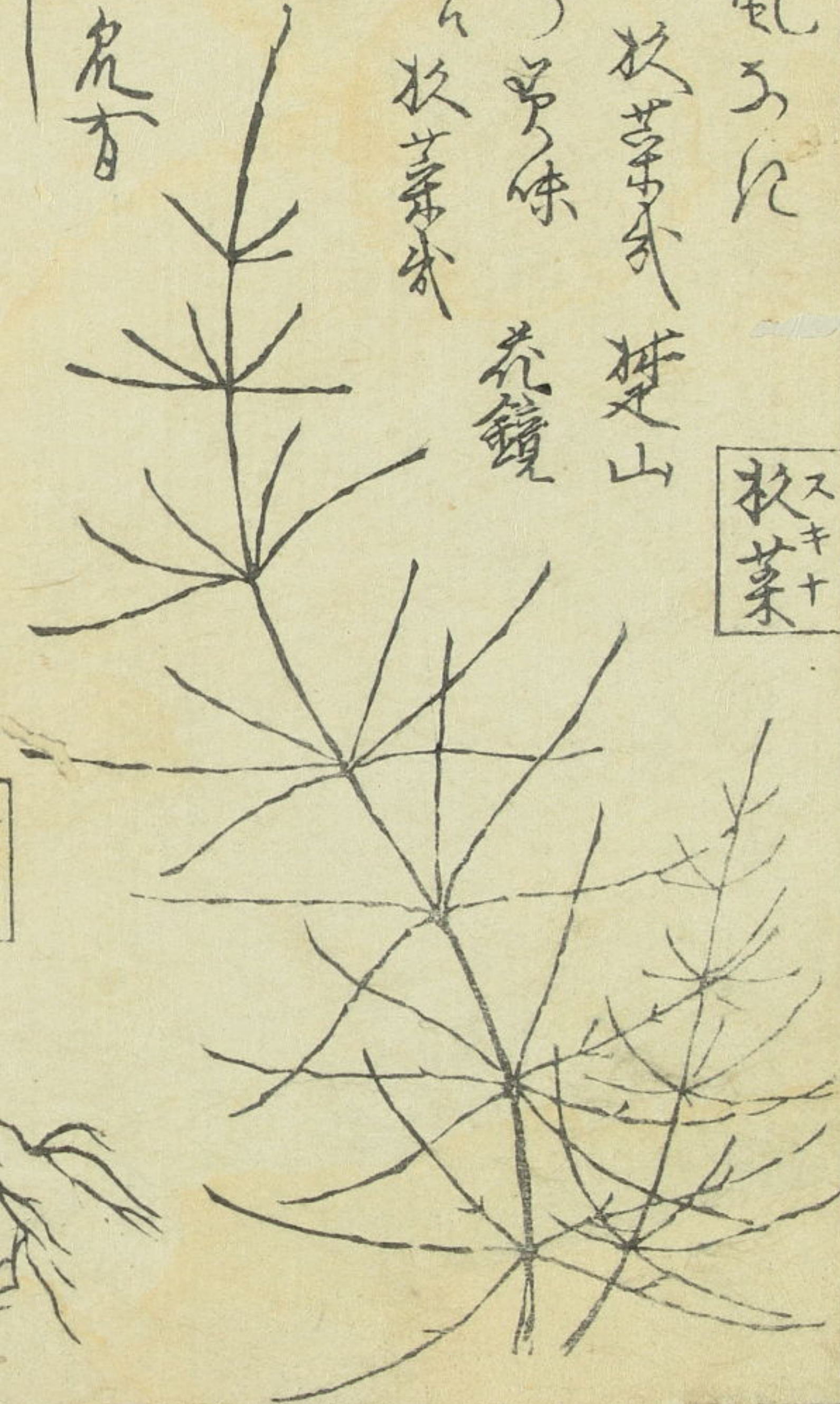
杖葉

子供も

虎首

つまらぬ

杖葉 スキナ



解 トコ

此所 蘇と唯

と了 杖の草

金毛

唯 吟く 庭と 草の 物と 蘇 式 楚山



草花の 子と

後れ 了る 斤 境

楚山

人の 庭の 西の 小

ぬい した 草の 葉

兔目

撰り 了る 乾 母

了る 子と

此の 草花 嶋

立 成つ 了る 人

小 了る 了る 了る 了る

流 左

是 時 也

人 了る 了る 草の 葉 了る 了る 了る



草花 ツハナ

西の

あは 了る

湖 白

此の 草花



ママフキ
茶蔭花
白山吹
オモカケ草

山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を

山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を

山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を

山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を

山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を

山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を

山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を
山吹の白く
山吹の花を

草
壹草



山吹

何中

草

草

草

草ノ取墨斗ニ似タレハ
和訓墨入ノ略歟

二又舟の草あはれて雨^{イセ}椿堂^湯の^方
 ころけり^ゆ揚気さ^りより^草う^か桃^多色^れを
 あり^の月^中も^みを^まみ^れ子^種山^草
 仮初^の濃^淡
 ち^りさ^りさ^り草^子大^林麻^葉 只^一の^草子^道
 小^され^る
 陰^気の^子す^やま^れ草^清霞^霞
 ち^りれ^る残^痕
 え^どう^や草^子霞^亭
 拙^の日^を忘^れす^候を^神の^草 方^春
 ち^りり^りま^れる^泡
 ち^りり^りま^れる^子巨^梅 ち^りり^りま^れる^草我^我
 名^多く^と念^念
 ち^りり^りま^れる^草 ち^りり^りま^れる^草
 右^の草^根の上^{より}花^をま^りて^鳥頂^有

子愛^子
 先^先
 春^春
 凡^凡



草愛

背我

持あれそよ花もさけ此大根ミナ 梨泉

大根の花の白さよふらり白 梨青

春の舟や大根ふと花の咲 楚山

犬の子らる所

畑の毛大根 雀巢

む

肥小

大根ミナ

葉二三本三折 青龍

大根花



月の思ふ活や蒸姑の白く黒 楚山

ちきりや蒸姑 蒸姑を並へり 妙ね

大は小あり

懐より灰粒を 独活の芽や 旭博

遠く独活畑加留 独活の芽や 茶

酒を中りし月の独活道人 楚山

独活の芽や 梅里

独活の芽や 蒸りもはる小雨哉

雨二日晴て 花軌

独活ミナ

か所ミナ

聖者
谷川二条来て洗ふ山葵うけ 楚山
川を以て味本山山葵うか 楚山
山葵のちりけ 楚山
山葵のちりけ 楚山



獨活

山葵

蒸姑

筆少似てふふ

似絲を弄て七字 秋甫

そのの存る

数少も入るや天花茶 吉雄

道々ふやうは 三詩 可雄

子依の七字

送りの子々

を我あふ 平 玉光

つしし 平 玉光

天為茶つむ 三詩 三葉

ふしは 三詩 三葉

又於小八あふ 三詩 三葉

春あり七字 三詩 三葉

天花茶

士ノ筆
筆ツ花

故と

り折少な

七境裏の

はくく



小松舟の夕日 葉山

いれく 三詩 三葉

菜の花の舟 三詩 三葉

猪の少り 三詩 三葉

菜のふ 三詩 三葉

う 三詩 三葉

菘 三詩 三葉

菜の葉

あ 三詩 三葉

武費

菜の花 三詩 三葉

と 三詩 三葉

物 三詩 三葉

菜のち 三詩 三葉

菜の気 三詩 三葉

菜の花



吉田乃未刻也

菜の花 三詩 三葉

月秀

菜の花 三詩 三葉

下雄

芝石

行可八部

不轉菜の花

五ノ
杖亭

菜の花みどり 菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり
いばり 菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり

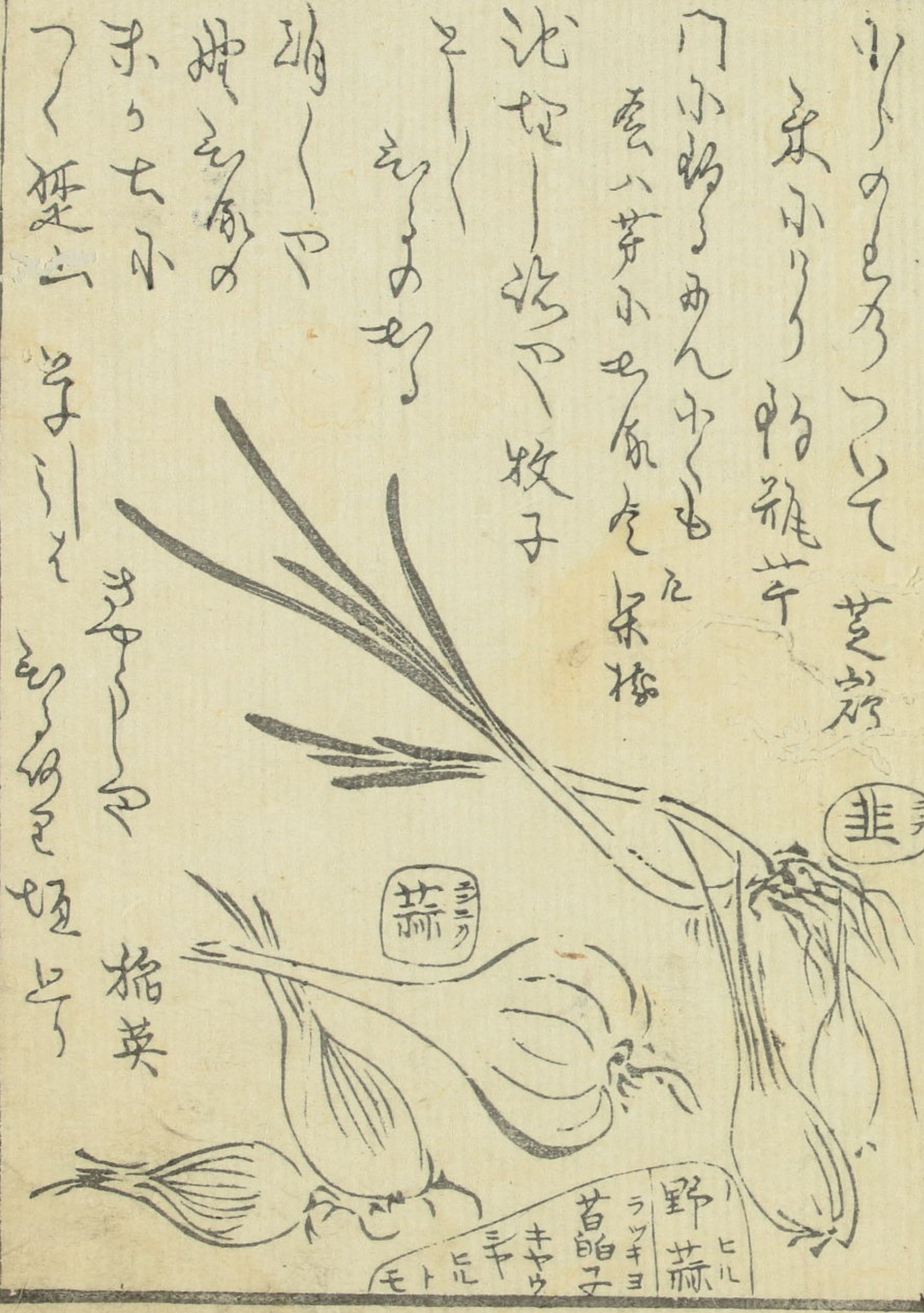
菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり
いばり 菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり

菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり
いばり 菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり

菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり
いばり 菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり

菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり
いばり 菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり

菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり
いばり 菜の花いばり 菜の花いばり 菜の花いばり



韭

韭

菜の花
 菜の花
 菜の花

野蒜
 ラッキョ
 菜の花
 菜の花
 菜の花

水乃あそび流る

花

の

の

花

の

花

花長草



根子奈らんの点のち一重花
根十層の花の余花やさくき
花のちのちのちのちのち
さくき
夜ト
欲深く極意へ
其雪
三川心さくハ
花より機草 席十
門て廣く子花の
砂やさくき 席十
下流へはくき
若て機草 宜公女
妹仔の机先 女
子や機草 宜斗
只何くも日さくき之機中 女
玉仙



櫻草

九輪草

花如

之形

如

花洞



俗名
三葉花
草

雨子

九輪草

花を

九輪子

完一輪

花

丁



花

花

故

花

花

金仙花



金仙花

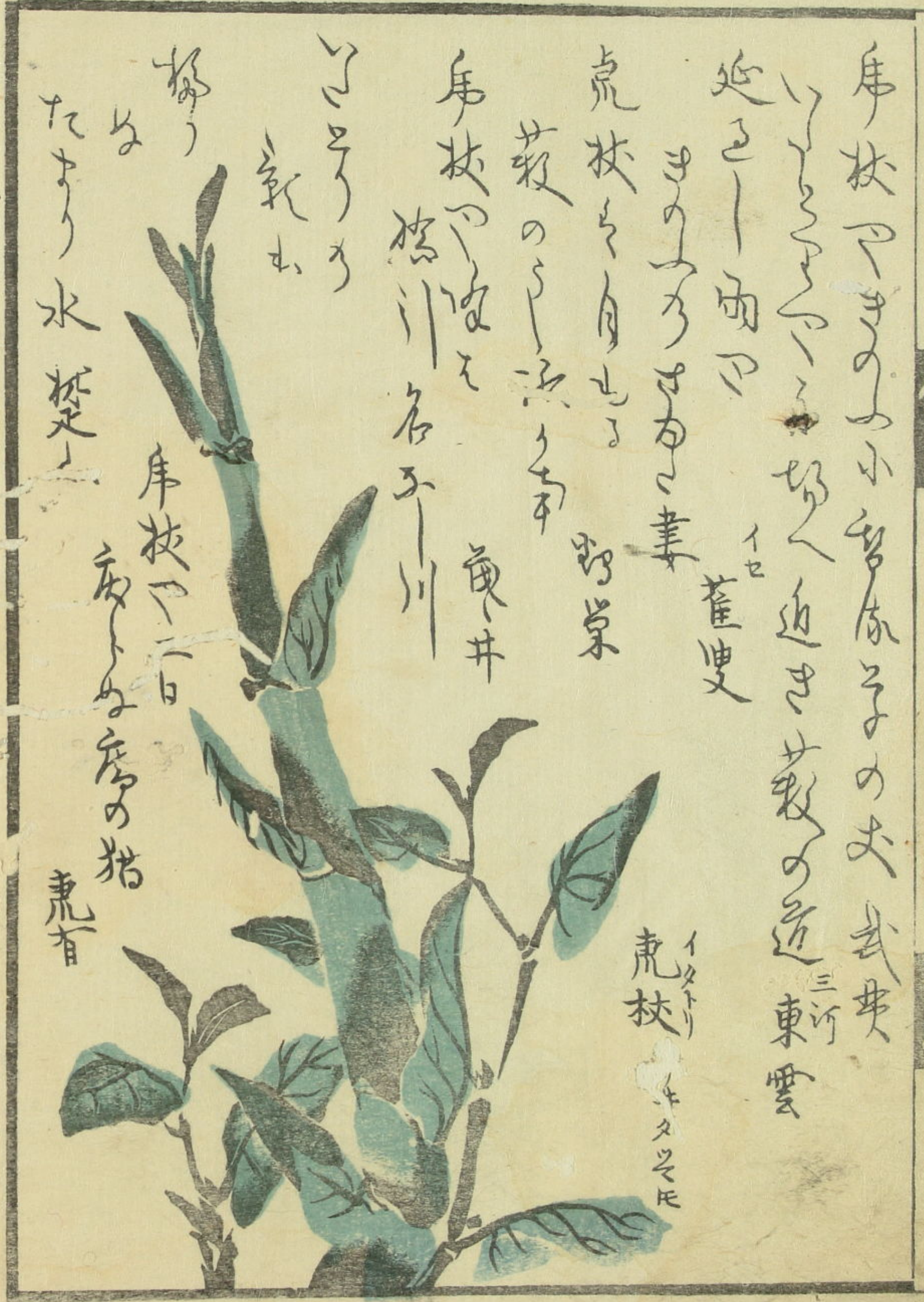


茅乃芽の
 下れ丸かいの
 の形れ武豊
 河の茅の
 ぬいしり
 松の松保光
 茅の芽の
 むしり
 えちり
 新波の
 葉山

花穂の芽の
 赤黒の
 雨子ゆく
 萩の
 えり月乃
 春文

菴ノ茅

芦ノ茅
 角ノ茅
 男茅
 鹿有
 秋の芽を
 寺乃



虎杖の
 いしり
 延き一雨の
 きのり
 虎杖の
 萩の
 尾杖の
 尾杖の
 たより水
 尾杖の
 夜と
 鹿有
 三河
 東雲
 尾杖
 尾杖

春蘭
ホクリ



春草咲
山崎口 泉
花折る
唯母を日二葉草又武要
葉を所 變心
さへく
中山馬を拵
春草を拵

雨をりきき
る遠きるひ跡うき
貴方の欠いの 貴
さるゝ 梅三
化倫外
あき
たれ化倫うき年二洞
ののちち
あきさるゝい林小士長
雨小四七化倫の
さへくさるゝ水馬韮
ののちちの
あきさるゝい林小士長
さへくさるゝい林小士長
化倫草



化倫草

雨くちの吹
 とあふし金鳳花
 草三

くれり
 名小
 金鳳花
 宜角
 長留き心の
 丸
 金鳳花
 雨いふりしき又えん金鳳花



金鳳花

苗代やまきうら

苗代

浪多羽か
 走う伊勢系人

苗代
 苗代
 湖葎

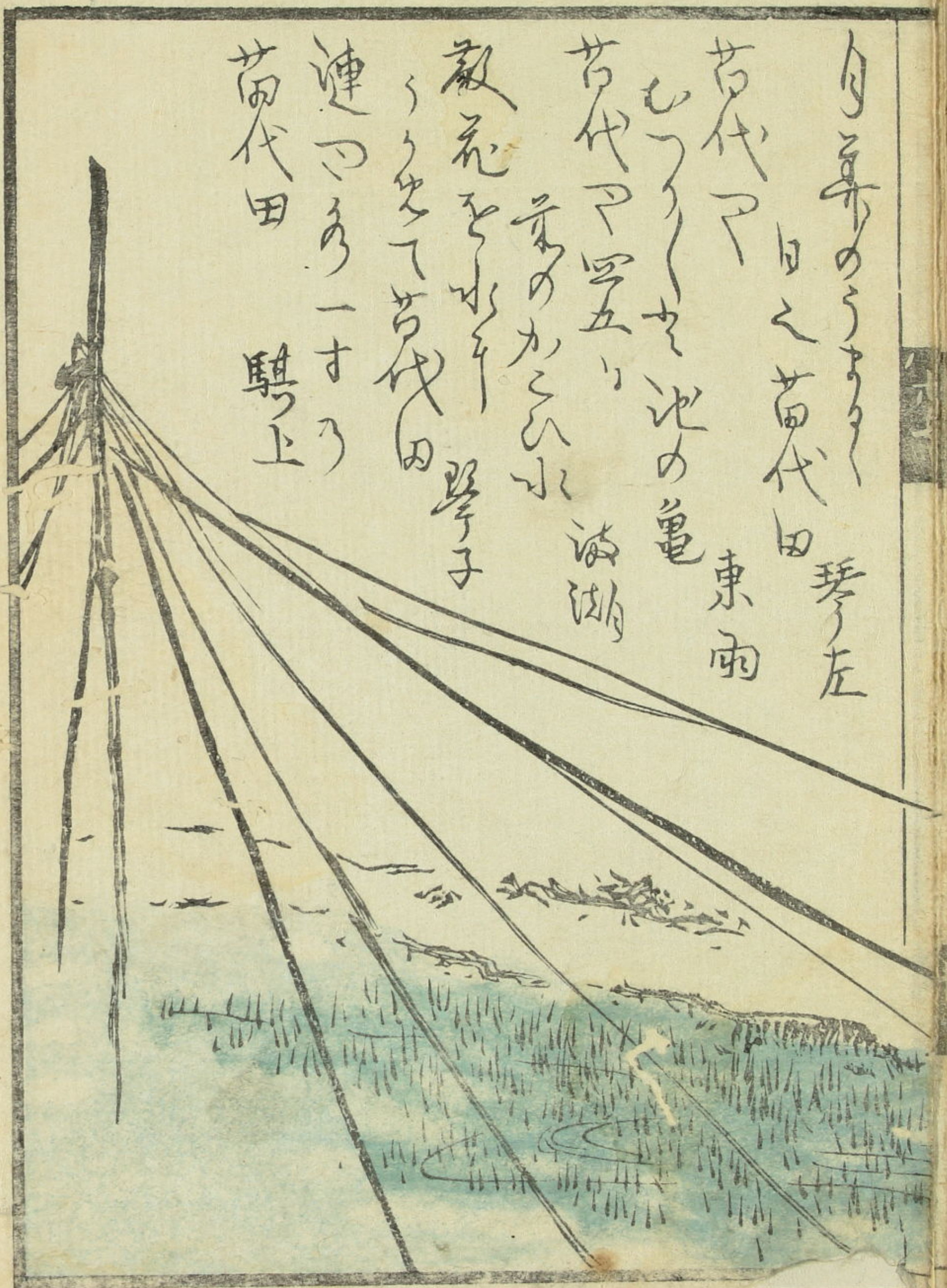
苗代
 野棠

苗代
 田口

水音也
 苗代田

苗代
 山ろ紙加笛





舟のうさぎ
 日く苗代田 琴左
 苗代田 東雨
 ひろくさ池の亀
 苗代田 波湖
 花を水子
 子
 連つる一寸
 苗代田 驛上

後々家の形で薊の花の肉 雙山
 降極る自燈 けさの班入か 二笑
 此も亦の葉ととて 薊うち 牧子
 葉小角ハ
 たんと
 めれも
 白薊 花鏡
 免草
 三つかり
 仁境 梅扇
 永りのさうし
 え申す薊うち 白鷗
 薊 岨の上 名方

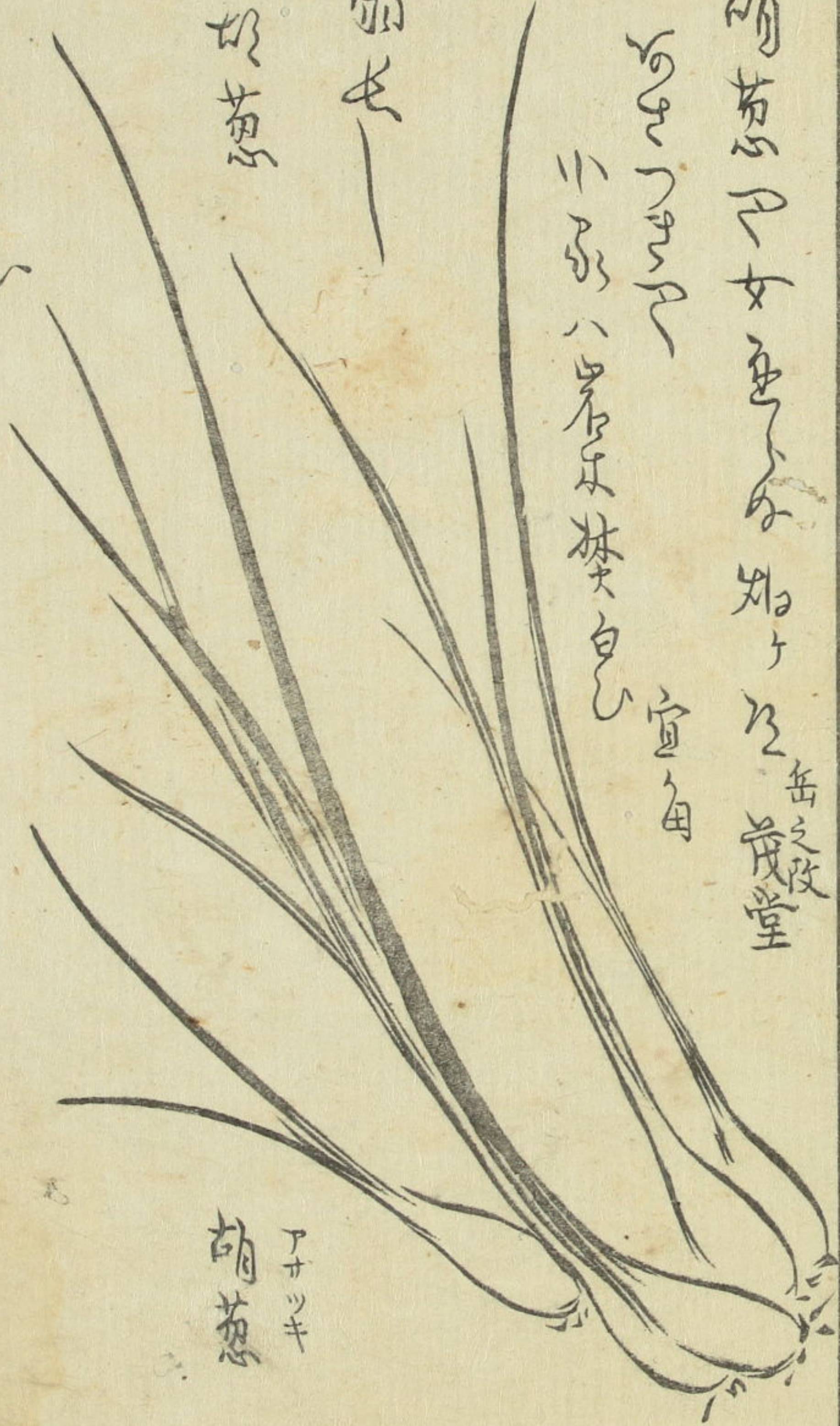


薊
 鬼薊
 眉作花

延々胡葱を引くは其葉

延々 胡葱

延々



アサツキ 胡葱

胡葱

胡葱

胡葱の女を引くは其葉

胡葱

胡葱の葉を引くは其葉

宜し

お
きり
きり
きり
きり

種
女



オタマキ 種斗菜





も
も

心

秋よ

秋の心 楚山

疏く心かまきりも友の葉 宜る

友の葉よ 月日の

おひらき 橋

毎の葉小

小の埋もておちの心 其江

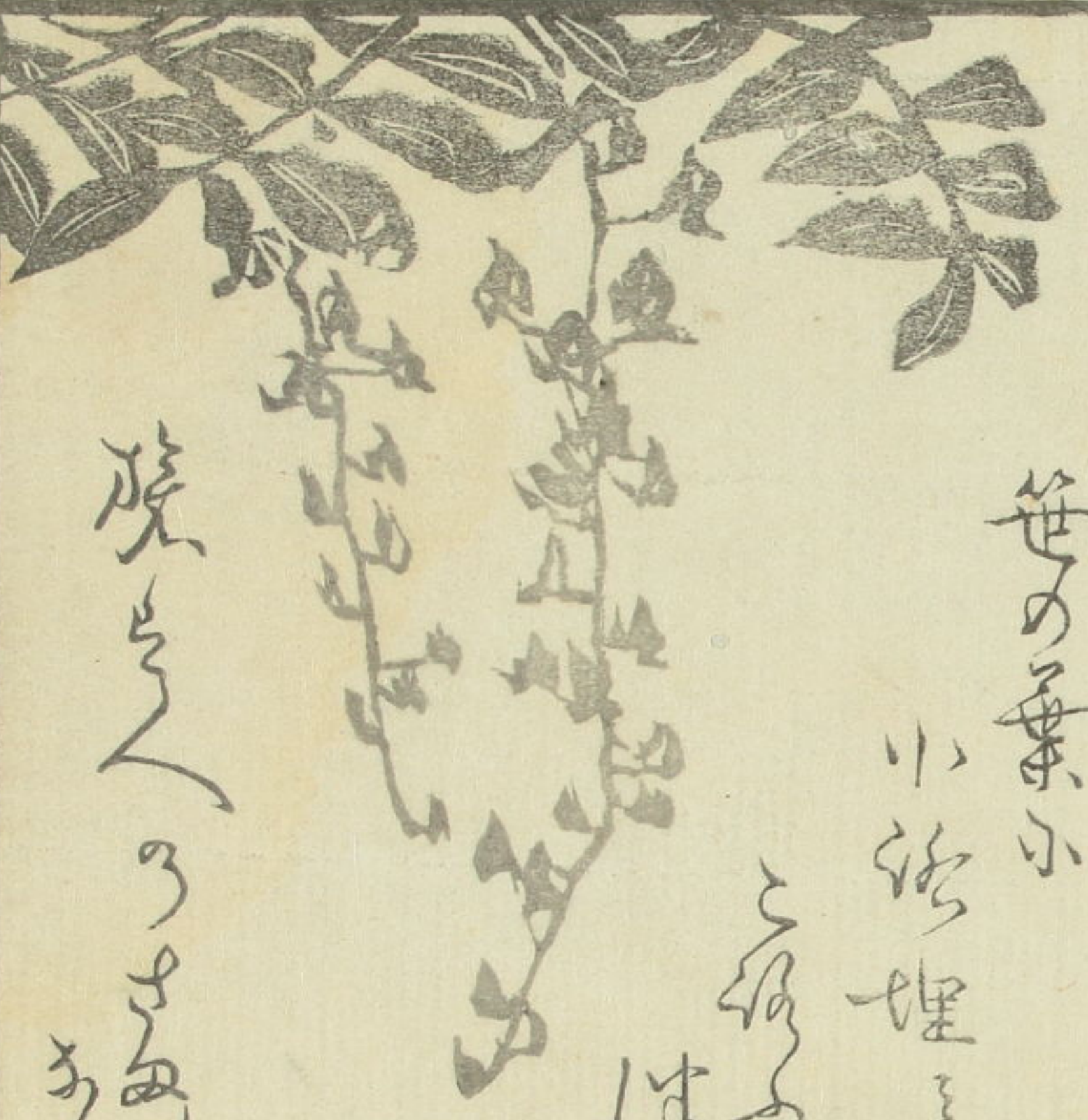
こぼれも友と

はらき 小の葉 其後

名よりの

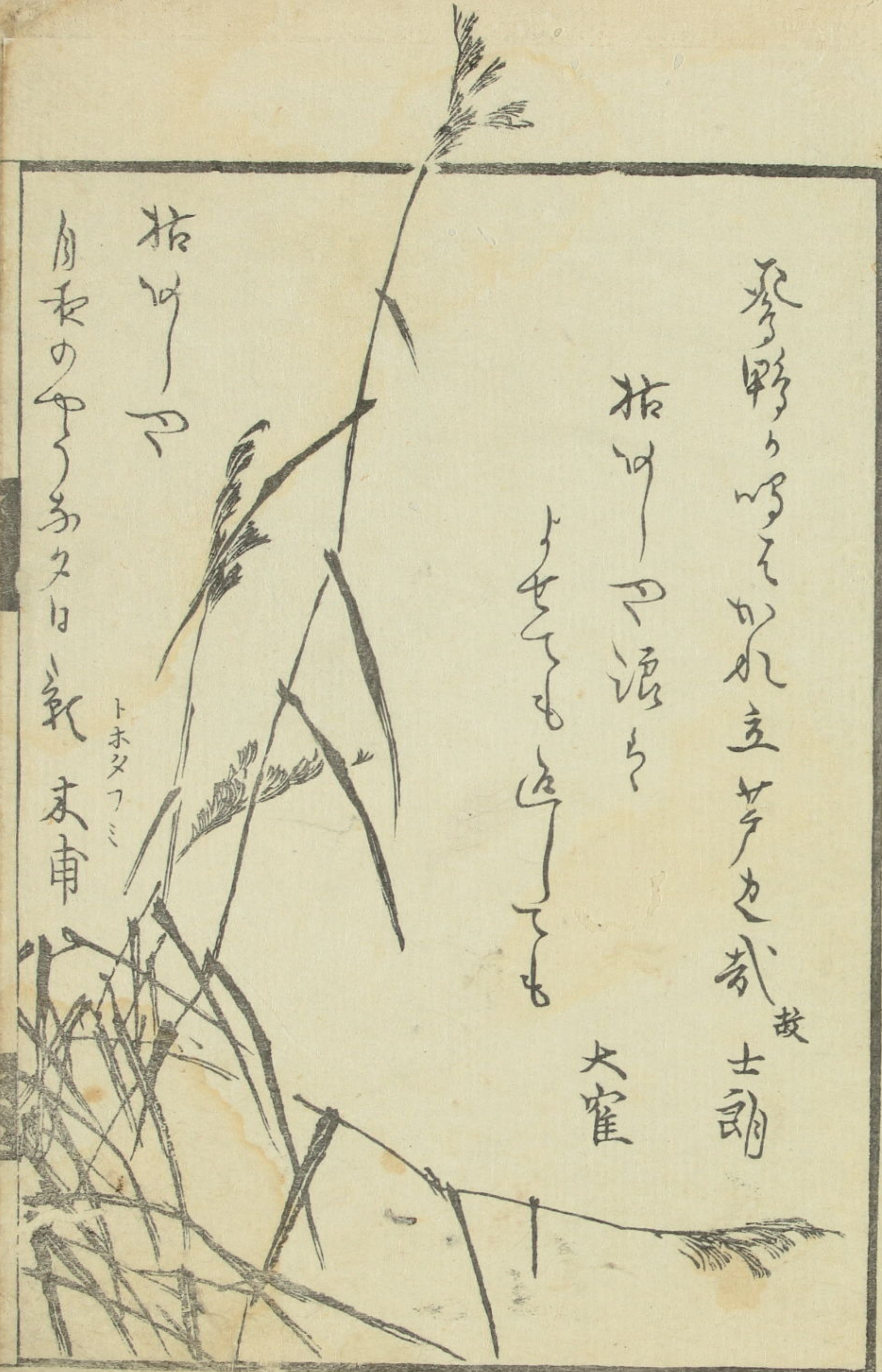
道はすの 梅里

おちの心



疏く

おちの心 友の葉 楚山



飛鳥の鳴るかたき草を哉 故 士朗

枯竹の涙

よせしもの道

大雀

枯竹

月夜の中より夕日 乾 末甫

トホタフミ



此の果はいふく 友乃集 沙路

棠棣

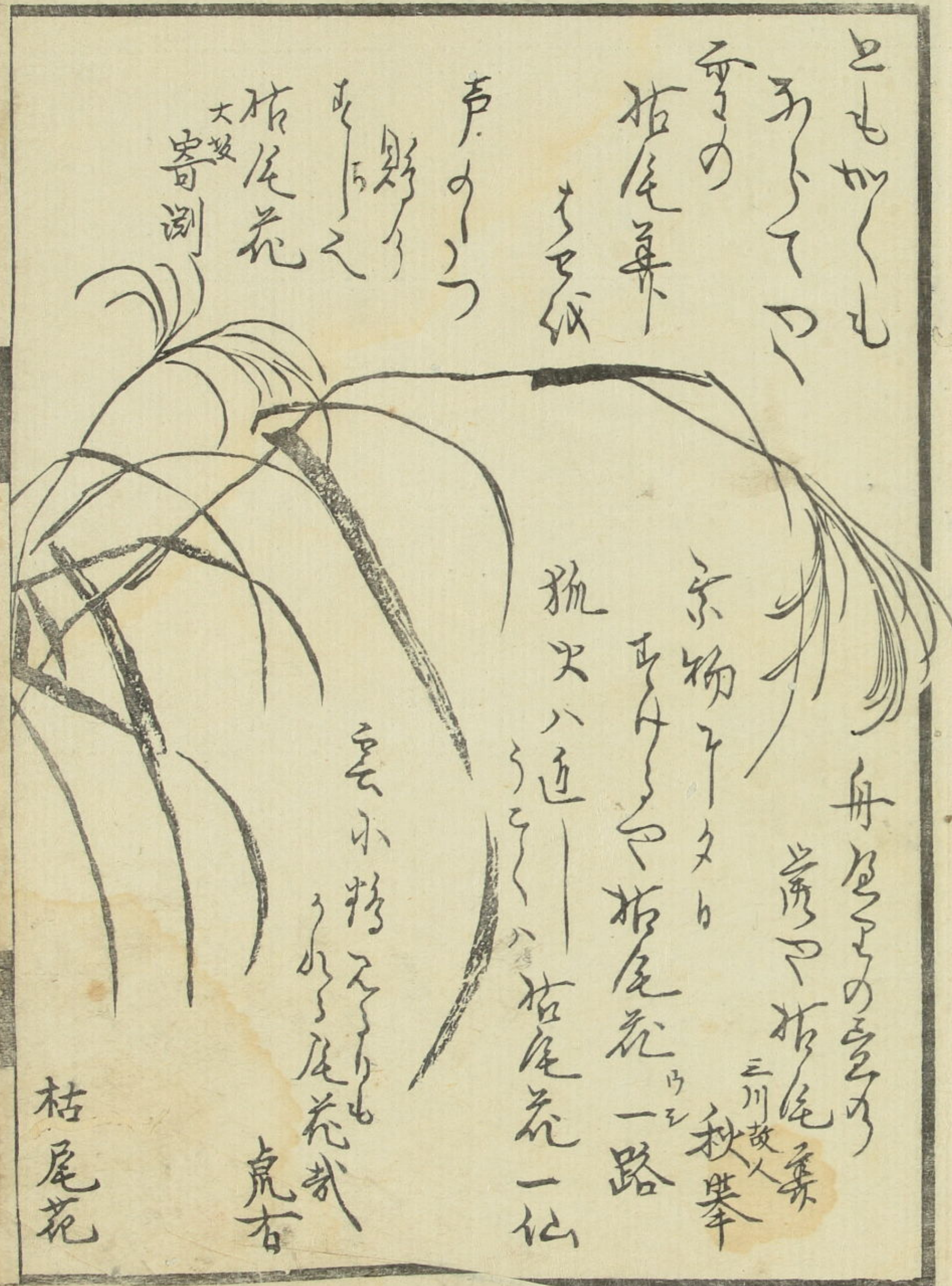
けしん

友乃集

昔のよりのも

虎首

藤
フキカツラ フキツル
サカリフキ フキコフ
フキノミル フキツナ
フキタナ



枯尾花

とも如くも

あはれなり

冬

枯尾花

くま

声のう

影

は

枯尾花

大坂 寄洲

枯芦乃くも車へ折れ小る也 古人 船門

小水芦の海士の子地よ子時乃舟 クマ 烟渚

音もせぬし小柳より浦の芦 五七律 珉古

枯芦の舟逢る系乃玲子履 下曉

聲も小枯もそのさし浪乃河 矢朝

小水芦と秋風一りはりの秋 梅里

鷗鳴て枯妻作る芦多きう季 其白

枯河の中小つよる小水乃 竟士

枯芦の系泳一り浪乃舟 窪棠

小水焚火つら小水芦の元鳴る 虎首

舟のたの意なり

芦乃枯尾花 三川故人

系物下たり 秋峯

舟乃枯尾花一路

荒火八通一枯尾花一仙

雲小枯るる也
うの尾花哉

虎首

形も似たり 蕪も似たり 小牧子

赤味も似たり 小牧子

蕪も似たり 花境

芝草の声 木天

壬生寺の男 如山

かゝる小好 芝鶏

可なり 鹿池

可なり 子供

紫のつむも 蕪洗り 雀巢

蕪川も ばけん 後小 大雀



蕪
カワラ
知

蕪も似たり

瓜も似たり 蕪の葉

多し 也 見たり

蕪も 小好 可笑

多し 也 見たり

眼も 変たり 家元

似たり

下
太節

蕪

蕪も 大好 葉

埃りの中 蕪

川 舟

蕪も 暢き

善し 也 見たり 蕪畑 朝露

翌日 也 見たり 蕪畑 朝露

大節

子韮の根

力くち 葉山

大いハハ

子秀古

信 葉山

カ子引

信 葉山

何て何れ種

子力くち

角力丸の

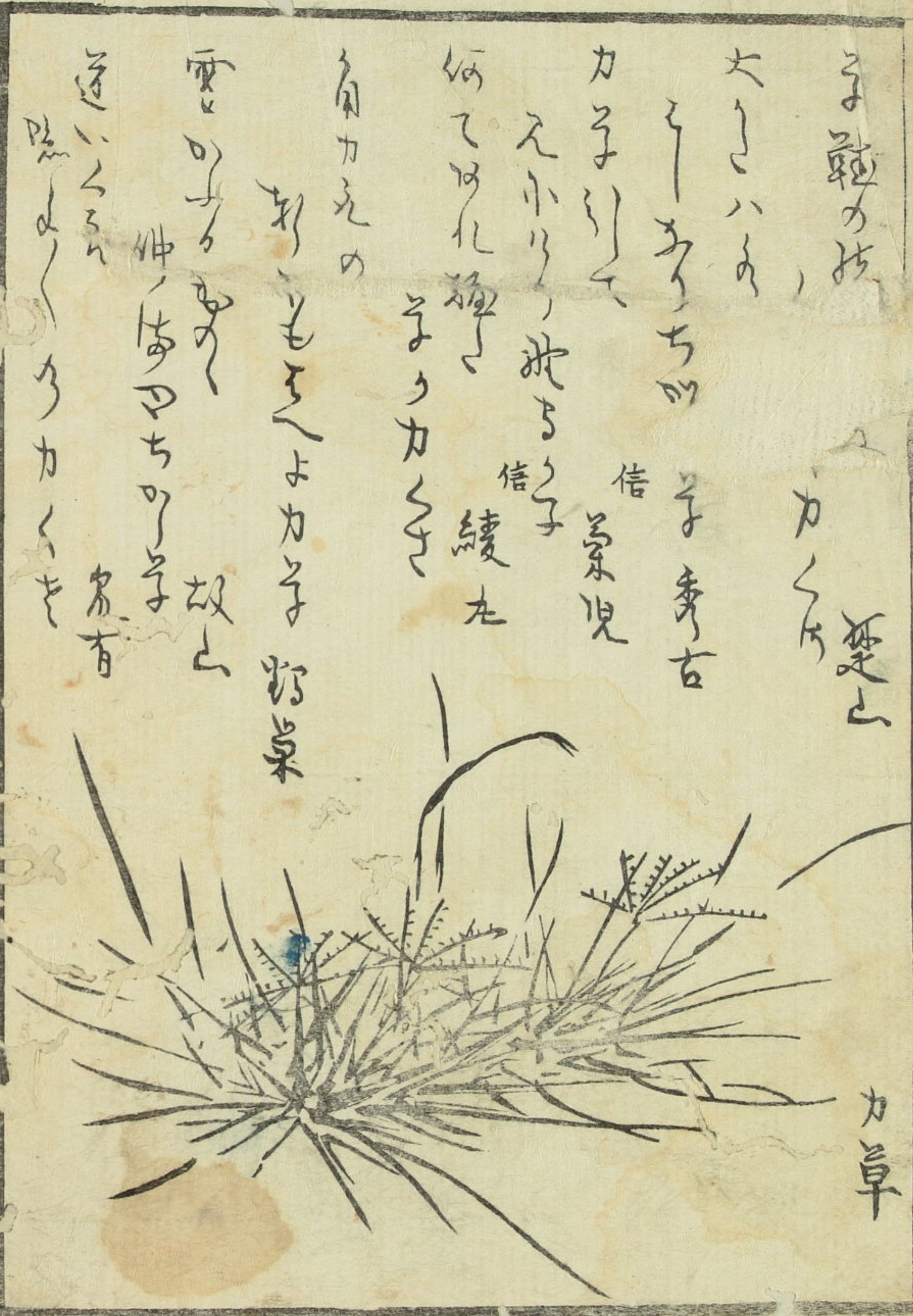
新もよよカ子 野菜

雲のつらみ

信 葉山

道いふん

信 葉山



力草

穀つら小小坊

のつら大根引 葉山

浦風内日をと

ろれ小大根引 而名

一ちりりりて丹右根

少中ちりり小幸よまて

ちて大根引 三所 金剛

世の中ハハハハ

ちて大根引 霞文

ちて大根引

ちて大根引

ちて大根引

ちて大根引

ちて大根引

ちて大根引 標原

ちて大根引

ちて大根引 葉山

ちて大根引



大根

遠くちりりりり

日を大根引

信 葉山

約小蘇

約小蘇

大雀

石菘の花... 石菘の葉... 石菘の根...
 石菘の葉は... 石菘の花は...
 石菘の根は... 石菘の葉は...



石菘花

諸名家發句画帖

全	全	全
秋之部	夏之部	春冬之部
全一	全一	全一

安政四年丁巳三月

尾陽書林

名古屋本町三丁目
 菱屋藤六
 同京町通小女町
 美濃屋仁

